

氏名	辻 玲子	部署	看護学科	職名	准教授
研究分野	老年看護学				
学位	博士（看護学）				
学歴	1994年慶應義塾看護短期大学看護学科、1999大分医科大学医学部看護学科、2001年日本赤十字看護大学大学院看護学研究科修士課程、2021年宮城大学大学院看護学研究科博士後期課程				
経歴	2012年埼玉県立大学保健医療福祉学部講師、2018年埼玉県立大学保健医療福祉学部准教授				
所属学会（役職）	日本認知症ケア学会（代議員、関東1地域部会委員、査読委員、選挙管理委員会委員）、日本老年看護学会、日本看護管理学会、日本赤十字看護学会、埼玉県立保健医療福祉科学学会、日本看護科学学会				

【2022年度実績】

1. 研究業績						
(1) 著作						
	著作の名称	単・共	ISBN	発行所、全ページ数	著者、編者名	発行等年月
1	新しいIPWを学ぶー利用者地域とともに展開する保健医療福祉連携ー	共著	あり	中央法規出版；P.288	埼玉県立大学編、辻玲子、他多数	2022.4
2	教育研修支援教材 介護人財 2023 3・4月号 特集なぜ？どうして？今さら聞けないケアの学び直し<前編>	共著	なし	日総研出版；P.70	大塚真理子、小野塚元子、丸山優、畔上光代、辻玲子、佐々木多恵子、木村ゆかり、出貝裕子、細田江美、曾根千賀子	2023.3
(2) 論文						
	論文の名称	単・共	査読	IF対象誌	雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ	著者、編者名
1	日本におけるヤングケアラーの概念分析	共著	あり		日本看護科学学会誌、42、494-500	常盤文枝、浅井宏美、辻玲子、水間夏子、上原美子、黒田真由美
(3) 学会発表						
	学会発表の演題	単・共		学会名、開催都市	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	日本におけるヤングケアラーの概念分析	共同		第42回 日本看護科学学会学術集会、広島	○常盤文枝、浅井宏美、辻玲子、水間夏子、上原美子、黒田真由美	2022.12
2	Signs of abuse in older patients detected by outpatient nurses	単独		第26回東アジア看護学研究者フォーラム (EAFONS)、東京	○辻玲子	2023.3
(4) その他						
	名称	単・共		発表場所等	発表者（発表者は○印）	発表等年月
1	該当なし					
2. 競争的資金等の研究						
	競争的資金等の名称			研究名	研究代表者・研究分担者の別	研究期間
1	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）			外来看護師が高齢者虐待の予兆を察知し介護者支援を行うための看護モデル開発	研究代表者	2018.4～2023.3
2	文部科学省・日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究C）			高齢者虐待の予兆を察知し虐待に至らしめない外来看護支援モデルの検証と評価	研究代表者	2022.4～2025.3
3. 教育業績						
(1) 講義						
	講義の名称	科目責任者	コマ数	概要（教育内容・方法等において工夫した点）		
1	老年看護学Ⅰ	○	6	学部1年次生に、老年期を生きる元気高齢者から衰弱・病弱高齢者までの一連の流れの中での高齢者の特徴や特性、老年看護の理念や考え方を講義した。		
2	認知症看護		1	学部4年次生に、卒業後の自己研鑽の仕方について（認知症看護認定看護師のことや認知症患者にかかわる多職種の事例検討会への参加等）を講義した。		
3	家族看護学		1	学部2年次生に、認知症高齢者を介護する家族支援（日本の現状と課題、支援の考え方、サポートの種類、援助の実際）を講義した。		
4	臨床薬理学（CNS）		3	修士課程1年次生が体験した事例を基に、症状アセスメントや服薬管理の理論への活用、服薬管理困難事例の対応方法、専門看護師の役割についての検討を行った。		

(2) 演習				
	演習の名称	科目責任者	コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	老年看護学Ⅱ (援助技術)		9	・感染予防を考え、口腔ケア演習を2か所に人数を半数にわけて行った。1つ目は、口腔ケアモデルを用いて、グループで看護計画に基づいたケアを模擬実践してもらった。2つ目は、口腔ケア用ウェットティッシュと保湿剤を用いて、自己口腔ケアを体験してもらった。(3コマ) ・高齢者疑似体験セットを学生に着用させて高齢者体験をしてもらい、活動能力が低下した高齢者への援助を考えさせ、学びを全体で共有した。(4コマ) ・パーキンソン病の人への排泄援助技術について、おむつ交換トレーニングモデルを用い、模擬尿の観察をし、又ベッド上でおむつ装着およびおむつ交換の体験を通して、パーキンソン病の人、看護師の各々の立場になってもらった。(2コマ)
2	老年看護学Ⅲ (看護過程)		6	対面にて、老年看護実践に必要な情報の収集、アセスメントの記述、看護上の問題・課題の記述を個人及びグループで行う際、グループを回って質問に回答したりした。
3	老年看護学Ⅳ (地域とケアシステム)		8	対面にて、1~6回は、グループワークを行う際にラウンドして、進行状況を確認したり、質問に回答した。7~8回は、「私たちの考える老年看護と地域包括ケアシステムー事例をもとに」を、実習施設ごとの発表会、全体発表会の運営を行った。
4	IPW演習		14	遠隔にて、3年生の前半4グループ(24名)、後半3グループ(17名)が、自分達が選んだコロナ禍でのテーマの課題解決のプロセスをたどり、リフレクションをしながらIPWに求められる能力を高めるように、ファシリテートした。
(3) 実習				
	実習の名称	科目責任者	学外実習：期間 学内実習：コマ数	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)
1	老年看護学実習Ⅰ		2022.4~2022.6 学 外実習：4日 学内実習：12コマ	2年次生24名を担当し、3か所の老人福祉センターにおける元気高齢者とのコミュニケーションを中心とした実習指導を4週間かけて(1人現地半日を2回)行った結果、高齢者へのイメージや捉え方が変化した。
2	老年看護学実習Ⅱ		2022.10~2022.12 学 外実習：18日 学内実習：20日	3年次生21名を対象に、医療療養型病床の使用又は学内での8週間の実習と特別養護老人ホームの遠隔実習または対面実習を行った結果、看護展開しつつ、高齢者の病状やADL、認知症の症状にあわせた援助や多職種との連携の基礎を学ぶことができた。
3	総合実習		2022.4~2022.8 学 外実習：8日 学内実習：4日8コマ	4年次生2名が、3週間の実習を行った結果、自分の課題と向き合いながら、かつコロナ禍での診療所内の患者及び訪問診療先の患者への看護実践が展開・体験できた。
4	IPW実習		2022.9~2022.10 遠 隔実習：4日と2コマ	4年次生6名が、それぞれの学科の強みを生かしつつ、事例の患者・家族の理解が深まり、かつ多職種の考え方の違いを学べるように、施設ファシリテーターと密に連携しながら、Zoom上でも意見交換してチームビルディングができるようにサポートした。
(4) 論文指導				
	対象	期間	主指導・副指導の別及び指導人数	
1	卒業論文	2022.4~2023.1	主指導 4名	副指導 名
(5) その他				
	名称	期間	概要 (教育内容・方法等において工夫した点)	
1	老年看護学概論 (非常勤講師)	2023.1~2023.3	上尾看護専門学校1年生約40名への講義を対面で14コマ施行	
2	修士課程 (老年看護) の研究指導参加	2022.4~2022.9	修士課程2年生のゼミに参加し、研究課題の検討を一緒に行った。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会、公開講座等の講師				
	講演会、研修会、公開講座等の名称	主催	講演、研修、公開講座等のテーマ	開催年月
1	関東1地域部会 事例検討会 運営	日本認知症ケア学会	多職種よれば文殊の知恵：有料老人ホーム入居者と在宅の認知介護事例	2023.2
(2) 国、自治体、学術団体等における委員等				
	国、自治体、学術団体等の名称	委員等の名称	任期	
1	日本認知症ケア学会	関東1地域部会委員	2014.4~現在	
2	日本認知症ケア学会	日本認知症ケア学会誌査読委員	2020.6~現在	
3	日本認知症ケア学会	日本認知症ケア学会 選挙管理委員会委員	2022.7~2024.6	
4	日本認知症ケア学会	認知症ケア専門士認定試験 第2次試験審査委員	2022.11	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容		年月
1	該当なし			
(4) その他				
	項目	相手方等	内容	期間
1	該当なし			

5. 学内運営			
	項目	内容	期間
1	全学的委員会及びセンター業務等	研究倫理委員会（人を対象とする研究審査部門）委員	2022.4～2024.3
2	学生支援	4年生進路担当 就職支援プロジェクトメンバー	2022.4～2023.3
3	学生支援	4年生担任	2022.4～2023.3
4	大学広報活動	埼玉県立岩槻高校1年生25名対象 高校出張講座「看護学入門 看護って何だろう？」をオンラインで行った。	2022.11
5	学長指定プロジェクトへの関与	プロジェクトG「包括的ケアラー支援における支援者間連携に関する研究」に共同研究者として参画した。	2021.4～2023.3
6. 受賞（研究、教育、社会貢献活動に関するもの）			
	受賞名	主催	受賞年月
1	該当なし		
7. 特許の取得			
	特許名	特許番号	登録年月
1	該当なし		
8. 特記事項			
1	該当なし		